

モンキチョウは"紋のあるキチョウ"で、"紋のあるシロチョウ"がモンシロチョウです。モンキチョウは北海道から八重山諸島まで全国に分布しています。モンシロチョウも含めごく普通にみられるチョウは、よほど必要がないかぎり新しい標本を作らないため、1968年の標本写真を示しておきます。羽の色が黄色いのは例外なくみですが、♀は白と黄色両タイプがいるやっかい



なチョウです。実は本年10月1日、西畑花畑で黄色♀の交尾個体を確認できました。私にとっては初めて見る黄色型♀で、そっと持ち

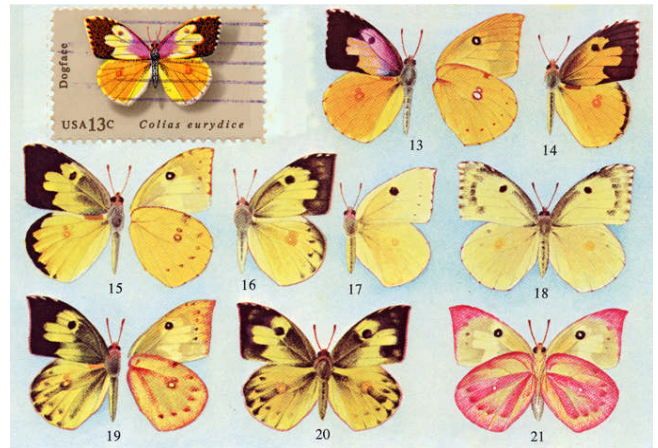


帰り交尾は1時間半後に解けたのですが飼育下に産卵はしてくれませんでした。松波町周辺でモンキチョウの幼

虫はシロツメクサ（クローバー）やアカツメクサを食べますが、荒井町浜風公園の芝生内に自生している、シルビアシジミの食草でもあるミヤコグサでも発生しています。シルビアシジミの飼育用に加古川からミヤコグサを持ち帰った際にモンキチョウの卵がついており、クローバーで育ててきれいな白色♀を羽化させ、自宅ベランダから野外へと放してやりました。

モンキチョウは世界中で約80種を含む *Colia* 属に属し、日本では本州の中部山岳地帯だけにみられる準絶滅危惧種選定のミヤマモ

ンキチョウと2種だけですが、ヨーロッパのアルプス地方や北アメリカなどに多い種類です。その北アメリカに、前にキチョウの項で触れた”DogFace”と称される面白い模様の仲



間がいて切手にもなっています。どうです、前翅黄色部分に目もあってどうみてもかわいいワンちゃんの顔ですよ。

ところで、上のチョウの図が写真ではなくすべて手描きだといったらすぐに納得がゆきますか？ これらは William H. Howe という昆虫学者でもある画家が全てのチョウを手で描き上げた “THE BUTTERFLIES OF NORTH AMERICA” Doubleday & Company, Inc (1975)

というカラー図版97、描かれたチョウの数2093、総ページ633、厚さ5cmという膨大な図鑑から転載 (PLATE 75) した

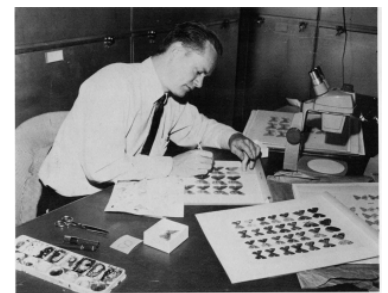


PHOTO BY EDWARD S. ROSS
William H. Howe, of Ottawa, Kansas, is a professional artist and lepidopterist whose paintings—exhibited in museums throughout the country and most recently in the Smithsonian Institution—have received widespread acclaim. As co-ordinating editor of this volume, Mr. Howe

もので、彼が実際にチョウを描いている様子が本の裏カバーに示されています。ヨーロッパにも “A Field Guide to the Butterflies of Britain and Europe” Collins (1970) という図鑑があってこれも760以上のチョウがカラー手描き。私の手元には1954年発刊のきれいな写真による原色日本蝶類図鑑があり、カラー写真製版技術があるのに手描きにこだわった理由は何でしょうか。いずれにしてもすごいテクニックです。